第３６回

西洋社会科学古典資料講習会

2016 年 11 月 16 日（水）～ 18 日（金）

一橋大学社会科学古典資料センター

2016

講　義　日　程

第１日　１１月１６日（水）

	8:50～ 9:10	オリエンテーション		
①	9:10～10:40	古典研究（Ⅰ） スイス人法律家の書簡からみる 20 世紀初頭の日本法学界	小沢 奈々 横浜国立大学教育人間科学部准教授	1
②	10:55～12:25	書誌学（Ⅰ） 図書館員のための書誌学入門：分析書誌学の基礎と記述書誌の読み方	安形 麻理 慶應義塾大学文学部准教授	4
③	13:45～15:15	書誌学（Ⅰ） 図書館員のための書誌学入門:分析書誌学の基礎と記述書誌の読み方	安形 麻理 慶應義塾大学文学部准教授	
④	15:30～17:00	保存・修復（Ⅰ） 環境と材料：紙資料の保存	増田 勝彦 元昭和女子大学大学院教授	10

懇親会 (17:20-19:20)：希望者のみ

第２日　１１月１７日（木）

①	9:10～10:40	**書誌学（Ⅱ)** 西洋古典籍と大学図書館	中井 えり子 元名古屋大学附属 図書館研究開発室 研究員	17
②	10:55～12:25	**古典研究（Ⅱ）** ヨハネス・アルトゥジウスと共生の『政治学』教本：ギールケ文庫の初版（1603年）を手に取って	小倉 欣一 早稲田大学名誉教授	20
③	13:45～15:15	**保存・修復（Ⅱ）** 西洋古典資料をもっと知るために	岡本 幸治 製本家・書籍修復家	23
④	15:30～17:00	**一橋大学社会科学古典資料センター見学**		

第３日　１１月１８日（金）

一橋大学附属図書館見学 (9:00～9:45)：希望者のみ

①	10:00～11:30	**書誌学（Ⅲ）** 西洋古典資料の目録作成	床井 啓太郎 一橋大学社会科学古典 資料センター専門助手	30
②	12:50～14:20	**古典研究（Ⅲ）** 英文学の正典と受容：文学観光の事例から	吉野 由利 学習院大学文学部 准教授	35
③	14:35～16:05	**書誌学（Ⅳ）** 目録作成実習	福島 知己 一橋大学社会科学古典 資料センター専門助手	
	16:20～16:40	**修了式**		

※第３日のみ各時限の開始時間が異なりますのでご注意ください。

スイス人法律家の書簡からみる 20 世紀初頭の日本法学界

小沢 奈々

（横浜国立大学教育人間科学部准教授）

スイスの首都ベルンにある連邦公文書館（Schweizerisches Bundesarchiv）には、スイス民法典(1912 年)の起草者として知られる法学者オイゲン・フーバー（Eugen Huber (1849-1923)）が生前に受け取った膨大な数に上る書簡が、“BAR Dfm-Erfassung / ZAP Repertorium JI.109 (-)：Huber Eugen (1849-1923), 2.F Allgemeine Korrespondenz”として所蔵されている。その差出人の中には、ジェニー（François Gény）やエールリッヒ（Eugen Ehrlich）といった、当時のヨーロッパ法学界に名を轟かせた法学者たちをはじめ、鳩山秀夫、穂積重遠、遊佐慶夫などの日本人法学者たちの名を見出すことが出来、フーバーの幅広い交友関係の実態を窺い知ることができる。本報告では、明治 33 年（1900 年）より 13 年間の長きにわたり、東京帝国大学をはじめ、明治法律学校や和仏法律学校で法学教育に従事した、ルイ・アドルフ・ブリデル（Louis Adolphe Bridel (1852-1913)）という人物がフーバーに送った書簡に注目することにしたい。

ルイ・ブリデルは 19 世紀末スイスの高名な法律家の一人であり、ジュネーヴ大学法科大学教授として、学説彙纂、比較私法及び民法入門を講じる傍ら、同大学法科大学長、ジュネーヴ州議会議員をはじめ、スイス民法典第一予備草案（le premier avant-projet de code civil suisse）の編纂にも携わった人物である。明治 33 年（1900 年）、彼は、東京帝国大学仏蘭西法教師ルヴォン（Michelle Revon）の後任として、東京帝国大学法科大学に招聘された。同大学では主に「仏蘭西法」を担当し、明治 43 年(1910 年)秋以降には、ドイツ人教師レーンホルム（Ludwig Löhnholm）の代講として「独逸法」も講じている。彼の講筵に列していた学生の中には、杉山直治郎（明治 36 年卒）、牧野英一（明治 36 年卒）、末弘厳太郎（大正元年卒）、芦田均（大正元年卒）、栗山茂（大正 2 年卒）といった、大正・昭和期を代表する法学者・裁判官・政治家たちがいた。東京帝国大学の他にも、明治法律学校にて「泰西比較法制論」及び「法理学」を、和仏法律学校にて「比較民法」を、そして第一高等学校の仏語科 3 年生の生徒には「法学通論」を教授している。ブリデルの専門は、比較親族法（droit de famille comparé）、特に婦人の法律上の地位についての比較研究である。また彼は、女権論者としても著名であった。

冒頭にて紹介した、スイス連邦公文書館所蔵のフーバー宛書簡の中には、ブリデルがフーバーに宛てた書簡全 61 通を確認することが出来る。それらは明治 26 年（1893 年）4 月より明治 45 年（1912 年）4 月にわたって送られたものであり、そのうち、ブリデルが日本に滞在した明治 33

年（1900 年）から大正 2 年（1913 年）の間に書かれたものは 15 通となっている。本報告で紹介するのは、この 15 通の書簡である。

ブリデルという人物に関する日本側の史料としては、東京大学総合図書館が所蔵する「東京大学傭外国人教師関係書類・講師履歴書」をはじめとする数点があるのみで、これまで彼の日本での活動について十分に研究の対象とされてきてはいなかった。こうしたなか、本書簡の「発見」は、明治末から大正期という時代の、法学領域におけるお雇い外国人の活動を、彼の内面も含めて明らかにすることを可能とするものである。

また、これらの書簡が書かれた時期にも注目するならば、本書簡は、スイス・日本両国の、特に民法典の編纂の経緯をみる上でも興味深い史料であると言える。日本では、明治初年より進められてきた民法典の編纂作業が、明治 31 年（1898 年）に明治民法典が施行されることでようやくその目処がつき、ブリデルが来日した明治 33 年（1900 年）には、はやくも同法の改正を求める声があがり始めていた。一方、スイスでは、1892 年より開始された民法典草案の編纂作業が着々と進行し、1900 年に第一草案が提出され、その後、連邦議会での審議・承認を経て、ブリデル逝去の前年にあたる 1912 年 1 月 1 日にスイス連邦統一民法典（Schweizeriches Zivil Gesetzbuch / ZGB）として施行された。尤も、同民法典は施行以前より、20 世紀最新の法典として、ヨーロッパ各国で注目されており、日本の法律家の間でもスイス民法典の編纂作業には関心が持たれていた。本書簡には、こうした 20 世紀初頭における日本・スイス両国の法学界の動き、そして両民法典の架け橋となったブリデルの姿が鮮明に描き出されている。

本書簡から明らかになるブリデルの日本での活動としては、彼の本務である東京帝国大学での教育活動の他、その他の教育機関での活動、著述活動、そしてスイス民法典冊子の配布活動を挙げることができる。本報告ではまず、彼の仕事の中心であった法学講義の具体的内容を取り上げる。そこから、講義の内容面において、初期においては比較法的観点からの法学教育が大半を占めていたが、その後、20 世紀最新の民法典である、スイス民法典の紹介が講義の中心に置かれるようになり、その比重が年々増加したという事実を指摘したい。次に、ブリデルが同民法典を世に知らしめようと様々な活動を行なうなかで、最も精力的に行なったスイス民法典の冊子の提供活動について焦点をあてる。その際、彼の日本の滞在目的についてもあわせてみていきたい。スイス民法典の冊子の提供を受けた者の中には、梅謙次郎や富井政章といった我が国の民法典起草者、また、ブリデルと専門を同じくし、スイス民法に関する数多くの業績を有する家族法学者穂積重遠、さらに、清国の使節や孫文も挙げることができる。フーバー宛の書簡から、こうした活動をするにあたり、ブリデルが、日本で施行されたばかりの新民法典の、後に行なわれるであろう法改正の際に、スイス民法典の理念を普及させようとしていたこと、日本法学界の次世代を担う人物にスイス民法典を託すことにより、法学界におけるスイス民法典の存在を高めようとしていたこと、さらには法学領域におけるスイスの「植民地化」を、近代化の途上にあった中国に対して行なおうとしていたことを明らかにする。

ブリデルは、前述のように13年もの長きにわたり日本に滞在したが、その背景には、スイス民法典を認知させ普及させようという彼なりの使命感があった。彼にとって、祖国スイスの繁栄は悲願であり、彼の信じた自らの使命とは、祖国の法律であるスイス民法典を極東の地に伝播するという、いわば宣教ともいうべきものであった。そしてその考えは徐々に彼の中で加熱していき、ついにこれを通じてスイスを列強国の一員としたいという意識にまで高まった。しかし彼のこのような意図には限界があり、時代がそれを叶えることはなかった。スイス民法典を、ドイツ民法典やフランス民法典と並ぶ、第三の大陸法の一つとして、日本にその存在を主張するという、彼の目論見は、残念ながら果たされることはなかった。しかし、ブリデルの日本での活動は、日本の法学界にとって決して無意味なものであったわけではない。彼が教授した比較法学や家族法学は、彼の教え子たちによって継承されていくことになる。またスイス民法も、ドイツ民法やフランス民法ほどの影響力とはいえないものの、第三の選択肢を日本の法学界に提供することを通じ、大正期以降、日本の法学界の自立を促すことになったのである。

図書館員のための書誌学入門

― 分析書誌学の基礎と記述書誌の読み方 ―

安形 麻理

（慶應義塾大学文学部准教授）

1. 分析書誌学とは

（1）分析書誌学研究史の概略

a）分析書誌学とは

書誌学にはさまざまなアプローチがあるが、一口にいえば書物を対象とする学問である。ここでは、広い意味での本を物理的なモノとして扱い、活字や紙、ページレイアウト、構成といった、本そのものに内在する証拠を用いて、その本の成り立ちにまつわる疑問を明らかにしようという英米流のアプローチを扱う。

b）分析書誌学の成立

分析書誌学は、19 世紀後半にイギリスを中心に発展した比較的新しい学問領域である。もちろん、それまでにも愛書家やコレクター、図書館員、歴史学者などによって、目録の作成や文献学的研究、古い刊本の印刷年代の推定などが脈々と行われ、成果も挙げていた。

体系的な科学としての書誌学は、ケンブリッジ大学図書館で 1850 年代から初期刊本（15 世紀に印刷された本、インキュナブラ）を担当し、やがて同図書館長となったブラッドショー（Henry Bradshaw）を先駆者とする。

英米における書誌学の歴史については、タンセルによる *Bibliographical Analysis: A Historical Introduction* に簡潔にまとめられている。大きくは以下の流れがあったことを知っておくと、個別の研究の位置付けがよりよく理解できるだろう。

① 活字や用紙の調査に基づく初期刊本の印刷年代や印刷業者の同定が中心的な課題とする時期

② 印刷されたテクストに影響を与えるものとして、印刷工房での作業の実態や

習慣に着目する「新書誌学」が登場。シェイクスピアなどのエリザベス朝・ジェームズ 1 世時代の文学作品を対象に、多くの成果を挙げた。
→ 一方では、印刷工房での作業を単純化し、一般化しがちであったことの反省

③ デザイン上の特徴を社会的な関係、つまり、著者・出版者・読者が与える意味との関係から分析しようとする「テクストの社会学」の提唱。

c）書物史（History of the book）

「テクストの社会学」の方向性は、本と社会・経済の相互作用や、経済的・政治的動因としての本という観点から、本の生産・普及・受容といった読書をめぐるサーキットについて研究するという書物史に組み込まれていく。フランスで 1958 年にフェーヴルとマルタンによって『書物の出現』が刊行されたことを契機にさかんになったアプローチである。

最近では、本に残された書き込みから特定の作品の受容を検証したり、特定の個人の蔵書に着目したりといった、本と人との関わり方の詳細かつ実証的な研究も増えてきた。たとえば、ギンガリッチは、「誰も読まなかったベストセラー」と言われていたコペルニクスの『天球の回転について』（初版：ニュルンベルク、1543 年）の 601 冊の現存本の書き込みを 30 年がかりで調査し、この本が同時代の科学者達によって本格的に読まれてきたことを示し、当時の科学者達をつなぐネットワークを描き出すことに成功した。

（2）本の仕立て：本の物理的な構造

a）折丁（gathering, または quire, section）

本の基本的な構成単位。印刷済みの全紙を、本の大きさに合わせて折り重ねたもの。本の背の部分をのぞくと、二つ折りにした紙を重ねた束（折丁）が重なっているのが見える。

b）判型（format）

西洋の書物の仕立ては全紙（sheet）を何回折ったかという「折り」をもとにした判型で表現する。正しく組み付け・印刷し、正しく折らないと、ページの順番がおかしくなる。

折った後の紙 1 枚を「紙葉（leaf）」「葉（folio）」と呼び、それぞれの葉の表側を recto

(r)、裏側を verso（v）と呼ぶ。

現代の本の 1 ページ目　第 1 葉表（folio 1 recto）
2 ページ目　第 1 葉裏（folio 1 verso）
3 ページ目　第 2 葉表（folio 2 recto）

判型を判断する手掛かりは、鎖線（chain lines）の方向（縦か横か）、透かし模様（watermark）の位置、1 丁の葉数である。【当日配布資料を折ってみましょう】

判型	折る回数	全紙の	全紙1枚あたり		鎖線の方向	透かし模様		
			葉数	頁数		位置	第 x 葉上	1 葉上の大きさ
二折本 (folio: 2°)	1	1/2	2	4	縦	頁中央	1 か 2	1
四折本 (quarto: 4°)	2	1/4	4	8	横	綴じの中央	1・4 か 2・3	1/2
八折本 (octavo: 8°)	3	1/8	8	16	縦	綴じの上端	1・8 と 4・5 か 2・7 と 3・6	1/4
十二折本 (duodecimo/twelve-mo: 12°)	4	1/12	12	24	縦	頁上端	5・6	1/2
					横	前小口	11・12	
十六折本 (sexto-decimo/sixteen-mo: 16°)	4	1/16	16	32	横	綴じの上端	5・6・7・8	1/4

(3) 校合：同じ本を何冊も所蔵／デジタル化する意味

印刷本はまったく同じもののアナロジーとしてよく引き合いに出される。しかし、手引き印刷時代の書物には、単語や綴りに加え、異形活字や単語間の間隔の変更などの印刷上の細かな違いが存在し、それが印刷工程解明の手がかりとなりうる。

> “本には、同じ本に見えても、同一ではないものがある。書誌学を習い始めた人はこの点を忘れてはならない”（Greg；高野彰. 洋書の話. 第二版. 朗文堂, 2014, p. 213.）

たとえば、新書誌学（1(1)a）②）時代のヒンマン（Charlton Hinman）は、自ら考案した光学式校合機を用いて、1950 年代にシェイクスピアの最初の作品集（いわゆる First Folio）約 80 部の校合を実現した。その結果、最初から最後まで同一というものはほとんどなかった。ヒンマンは理想本の本文を確定し、ファクシミリ版として出版した。

また、安形はグーテンベルク聖書を対象にデジタル校合を行い、ヨーロッパ最初の印刷所でも印刷中に修正作業が行われ、現存本の本文が少しずつ異なることを明らかにした。

2. 記述書誌

（1）記述書誌とは

・目の前の 1 冊ではなく、「理想本（ideal copy）」について記述する　⇔　目録

・「理想本」とは、手引き印刷時代の書物に使われる用語であり、実際の刷・発行の範囲内で、印刷が終了した時点での出版者（印刷業者）が意図した最終的な形の本を（できる限り多くの同じ本を現物で調査したうえで）歴史的に検討・再構築したものを指す。

・本文の間違いや質ではなく、物理的な状態（折丁の順序など）を問題にする

例：コピー1：口絵、標題紙、本文、正誤表
コピー2：白紙、標題紙、本文、正誤表、出版広告
理想本：白紙、口絵、標題紙、本文、正誤表、出版広告

（2）記述書誌の役割

・記述書誌と手元のコピーを比較照合することで判断できること

- どんな本であるのか（著者、出版者、出版地、出版年、判型、活字など）
- どの版、刷、発行に属するのか（他のコピーとの関係）
- 完全なコピーであるのか（ページ、白紙、図版などが欠けていないか、折丁の構成や順番は正しいか）

（3）標題紙（title-page）の転写

Thomas Hobbes の *Leviathan* には、同じ印刷年をもつ 3 種類の版がある。目録をとる際には、標題の大文字・小文字は目録規則により標準化されるが、記述書誌ではそのまま転写する。では、どのように記述すればよいか？【当日配布資料で試してみましょう】

（4）校合：本の物理的構成を記述する

a）折丁記号（折記号）（signature）

製本師に折丁の順番を指示するために、各折丁の（少なくとも）最初の紙葉の下の欄外に文字または記号（折丁記号）が印刷されている・・・写本時代の踏襲

例）一巡目：A から Z までの 23 文字（J, U, W はラテン語にはなかった）

二順目：AA, BB…あるいは Aa, Bb…

例）数字を組み合わせ、1 丁目の第 1 葉に A1、第 2 葉に A2… とつける。

印刷（組版）は本文から始めるのが普通なので、前付（front matter; preliminary matter：標題紙、序文、目次など）は別の折丁になる。前付には全く折記号をつけないことも（本文は折記号 B から開始）、＊などの折記号をつけることもある（本文は折記号 A から開始）。

再版では標題紙から組み始めることが多いので、標題紙などの前付も本文と同じ折丁に含まれることが多く（折記号 A は標題紙から始まる）、判別のポイントの一つとなる。

b）校合式・折丁式（collation, collational formula）：本のつくりを簡潔に記述する方法

◆ 2°: A-H^{10}, 80 leaves.
二折、5 枚ずつ重ねた全紙を一回折って 10 葉にしたものが 1 丁で、それが A～H までの 8 丁ある（各丁は 10 葉からなる・合計 10×8＝80 葉）

◆ 4°: π^4 A-Z^4, 96 leaves.
四折、折記号のない全紙を二回折った 1 丁の前付と、23 枚の全紙を二回折った 23 丁（各丁 4 葉・合計 96 葉）

◆ 4°: [A-Z^8] , 184 leaves.
四折、折記号なし、2 枚ずつ重ねた 46 枚の全紙を二回折った 23 丁（各丁は 8 葉・合計 184 葉）

◆ 4°: A-Z^4, Aa-Zz^4, Aaa-Hhh^4 Iii^2, 218 leaves.　＝　4°: A-Z^4, 2A-$2Z^4$, 3A-$4H^4$ $4I^2$, 218 leaves.
四折、23 枚の全紙を二回折った 54 丁（23＋23＋8）と、全紙の半分を一回折った 1 丁（合計は 4×54＋2×1＝218 葉）

3. 参考文献

【用語辞典】

ジョン・カーター. 西洋書誌学入門. 横山千晶訳. 図書出版社, 1994, 428p.（絶版）（原書は初のイラスト入りの第 9 版が出ました。Carter, John, Nicolas Barker & Simran Thadani. ABC for Book Collectors. 9th ed. New Castle, Delaware, Oak Knoll Press, 2016.）

【本の歴史全般・書物史】

デイヴィッド・ピアソン『本: その歴史と未来』ミュージアム図書, 2011.

オーウェン・ギンガリッチ. 誰も読まなかったコペルニクス: 科学革命をもたらした本をめぐる書誌学的冒険. 柴田裕之訳. 東京, 早川書房, 2005, 396p.

リュシアン・フェーブル, アンリ=ジャン・マルタン『書物の出現』筑摩書房, 1998.

【分析書誌学】

雪嶋宏一. 西洋古版本の手ほどき: 基礎編. 明治大学リバティアカデミー, 2011.

Tanselle, G. Thomas. Bibliographical analysis: A historical introduction. Cambridge, Cambridge University Press, 2009.

安形麻理『デジタル書物学事始め: グーテンベルク聖書とその周辺』勉誠出版, 2010.

【記述書誌学】

高野彰. 洋書の話. 第二版. 朗文堂, 2014.

Bowers, Fredson. Principles of bibliographical description. Winchester, St. Paul's Bibliographies, 1986.

Macdonald, Hugh; Hargreaves, Mary ed. Thomas Hobbes: a bibliography. London, Bibliographical Society, 1952.

環境と材料

― 紙資料の保存 ―

増田勝彦

（元昭和女子大学大学院教授）

目　次

１.紙自身に内在する劣化要因

２.環境に依存する劣化要因

３.劣化予防対策の考え方と実施

1.　紙自身に内在する劣化要因

1-1. 砕木パルプ紙

リグニンの変色物質の転移

（本紙だけではなく周囲が茶褐色になる）

〈対策〉→包装用紙製品は中性紙とする（袋、包装紙、箱の紙、板紙）

1-2. 酸性サイジング処理紙　　＊補足-1 を参照

1-2-1. 酸性物質（明礬〈カリ明礬〉、硫酸アルミニウムなど）

① セルロースを加水分解し、結晶化を促す

② 紙への添加物として

②-1 明礬

：中国の表具師は糊に明礬を入れる（明時代の書籍の劣化）

＊芥子園画伝(1701)：絹の場合　膠 1.5%、明礬 0.6%

：日本画家は、膠に明礬を混ぜてドーサとし、絹、紙に塗布する

＊狩野派の法：紙の場合　膠 2.1%、明礬 1%

＊本間良助「日本画を描く人のための秘伝集」昭和 8 年 5 月、厚生閣書店

：西洋の 15-16 世紀の紙でも明礬は膠と共に使われていた

＊マイエンヌの手記(1631)：

紙に水 3 ガロン、膠 1 ポンド、明礬 2.5 ポンド(水に対して膠 3.3%、明礬 8.3%)

＊森田恒之「画材の博物誌」昭和 61 年 6 月、中央公論美術出版

②-2 硫酸アルミニウム

：木材パルプ紙の滲み止め用ロジンの繊維への定着剤として添加される

〈対策〉→酸性度の測定

湿式　中性紙ﾁｪｯｸﾍﾟﾝ、pH メータ

乾式　小谷尚子「非破壊方法による書籍資料の酸性度乾式測定方法の検討」（第 28 回文化財保存修復学会大会、2006）

→アルカリ性物質による中和と緩衝性物質の残留処置

炭酸カルシウム（$CaCO_3$），重炭酸マグネシウム（$MgHCO_3$）

＊（「防ぐ技術･治す技術 ― 紙資料保存マニュアル ― 」日本図書館協会、2005、より抜粋編集）

但し、明磐添加濃度が低い場合は、劣化速度は遅い。

→「和紙の劣化に対する明礬の影響」古文化財の科学 32, pp. 78-75

→「白色顔料による紙の劣化抑制」古文化財の科学 32, pp. 70-77

DAE 法によるトリエタノールアミンの残留処置

日本ファイリングによる事業化

1-2-2. 触媒（金属イオン）

① 酸化反応を促進する（インクに含まれる鉄、付着した錆、顔料の緑青）

〈対策〉フィチン酸塩処理の効果が認められる

② 黄土に含まれる鉄は損傷を与えない

〈対策〉→酸性を緩和する処置

1-3. 保存・修復材料

① セロテープ類による汚損・変形

〈対策〉→有機溶剤による除去

② 漂白剤（漂白中、残留漂白剤による）

〈対策〉→外観の向上を図るだけの漂白を避ける

→見難い文字を見易くさせるときのみ行なう

→修復家と討議

版画などでは光漂白（日光、蛍光灯）を処置することがある。

2. 環境に依存する劣化要因

2-1. 生物環境

虫害とカビ害（温度､湿度が高いと発生しやすい）が主だが、小動物による被害

も可能性有り。

〈対策〉燻蒸、IPM　　＊補足-2 を参照

2-1-1. 虫害

2-1-2. 黴害

（黴の生育範囲）

① 褐色斑点（フォクシング）→乾性の黴

② 黒色・赤色・青色の黴　　→湿性の黴

〈対策〉→保存環境の制御、集中豪雨･配管事故による漏水

→普通の条件では、風通しを確保すれば過度の湿度は避けられる

→防水性の箱の中に一度水気が入ると乾燥し難くなる傾向がある

2-2. 生物以外の環境

2-2-1. 温度と湿度

① 温度と湿度が高いと、化学反応速度が増す

② 含水率が低いと紙は硬くなり、折曲げに弱くなる（過乾燥）

③ 温度湿度の変化による紙の伸縮－含水率が環境相対湿度により変化

④ 温度湿度の変化が急激な場合の本などの変形

〈対策〉→書庫・収蔵庫の温度湿度管理

設計による省エネ型収蔵庫、

温度湿度調節機器の設置、特に除湿器の設置

→木や紙、土壁や漆喰壁も湿度調整機能を持つ

→相対湿度と絶対湿度を理解する。調湿剤の含水量。

環境の温度と湿度の条件が悪いと、図書の変形や劣化の促進の他に、カビの発生、虫の侵入を招く。カビ発生などの問題点を把握するためにも、測定と記録が同時に出来る計測器を複数箇書庫に設置して年間の記録をすることが勧められる。

夏季に高温となる最上階や西日が直接当たる書庫などは、専門業者による断熱工事が必要である。

湿度については、絶対湿度（単位体積あたりの空気中の水蒸気の量 g/㎥）と相対湿度（温度によって大きく変化する空気の飽和水蒸気量と絶対湿度との比%）を理解する事は、現場の状況判断に有効である。

通常、湿度と表記されるときは相対湿度を表している。

絶対湿度（AH） $g/m3 = \frac{水分量（g）}{体積（m3）}$　　相対湿度(RH) % $= \frac{絶対湿度（g/m3）}{飽和水蒸気量（g/m3）}$

＊「図書館・文書館における環境管理」シリーズ本を残す 8, 稲葉政満、日本図書館協会

＊温度湿度の監視　商品名：おんどとり(温度、湿度測定とデータ保存)

2-2-2. 汚染空気

a) 環境大気中の酸素・酸化硫黄・酸化窒素・水分等外部からの物質による化学的作用

汚染大気から→亜硫酸ガス（SO_2）　硫酸になる可能性

窒素酸化物（NO_X）　硝酸になる可能性

オゾン、酸素など

〈対策〉→アルカリ性物質による中和と緩衝性物質の残留処置＊補足-2 を参照

炭酸カルシウム($CaCO_3$), 重炭酸マグネシウム($MgHCO_3$)

DAE 法によるトリエタノールアミンの残留処置

→アルカリ性物質を含む紙で包む

〈対策〉→収納箱によるシェルター　カイルラッパー他

→「容器に入れる—紙資料のための保存技術」、図書館協会

→中性紙によるガス吸着

「挿入法による中性紙の見直し」

[第 15 回資料保存協議会セミナー講演記録]平成 14 年 10 月

アルカリ性紙と長期間密着接触すると酸性紙の変色が大きくなる可能性。

＊ Masamitsu Inaba et al, 'Insertion-Accelerated Aging Test of Paper for Conservation: Increase in Discolouration of Acid and Alkaline Paper Interface' IIC, Baltimore 2002, pp. 104-107

b) 環境材料から放出される物質による

b-1. 新しい木材から放出される樹脂→桧などの箱に保存された金属の表面に樹脂が付着し、錆を進行。紙にも、フォクシング状褐色斑点をつくる。

〈対策〉→内装木材の場合、ハトロン紙、調湿紙などの被覆でも樹脂吸着に効果

樹脂の少ない材を使用する（桐、杉の白太など）

b-2. アルカリ性物質

① 染料を変色させる→浮世絵

② 写真の乳剤に影響

③ 絹を劣化させる

④ アマニ油（油絵の溶き油）硬化膜を褐色化。

打ち立てコンクリートから放出されるアルカリ性物質など

〈対策〉→コンクリートの枯らしに時間掛ける、除湿機の連続運転、包装用紙で壁面を覆う

アルカリ性が極めて高い紙（残留木灰を多く含む和紙）に包む危険性

〈対策〉→中性の紙に包む

中性紙について

硫酸アルミニウム含有中性紙

＊中野修「中性紙の評価法とこれからの課題」資料保存協議会第 1 回セミナー(2000)

坪倉早智子他「挿入法による紙劣化試験(IV)-硫酸アルミニウム成分の紙の劣化への影響-」文化財保存修復学会誌 Vol. 55、2010 年 3 月

2-2-3. 紫外線その他の光

a) 光（一般的には、照明が明るいと温度も上がる。）

① 可視光線、紫外線　日に曝された紙が変色する（白くなる、茶褐色になる）

〈対策〉→紫外線除去フィルターの使用

→光量の制限　暗ければ長時間、明るければ短時間

50Lux×8hrs×200 日＝100Lux×8hrs×100 日＝80,000Lux／年

（ギャリー・トムソン著、「博物館の環境管理」に記されている例）

博物館・美術館における展示照明の推奨照度（村上隆「文化財のための保存科学入門」）

資料	ICOM（1977）推奨値	IESNA（1987）推奨値	照明学会（1999）推奨値
光に非常に敏感な資料（1）	50lx できれば低い方がよい （色温度約 2,900K）	50lx	50lx （1 日 8 時間、年 300 日で積算照度 120,000lx/h）
光に比較的敏感な資料（2）	150～180lx （色温度約 4,000K）	75lx （1 日 8 時間、年 300 日で積算照度 180,000lx/h）	150lx （1 日 8 時間、年 300 日で積算照度 360,000lx/h）
光に敏感ではない資料（3）	特に制限なし ただし 300lx を超えた照明を行う必要はほとんどない （色温度約 4,000~6,500K）	特に制限なし 実際には展示照明効果と輻射熱を考慮する必要あり	500lx

ICOM :国際博物館会議　　IESNA：北米照明学会

(1) 染織品・衣装・ﾀﾋﾟｽﾄﾘｰ・水彩画・日本画・素描・手写本・切手・印刷物・壁紙・染色した皮革製品・自然史関係標本

(2) 油彩画・テンペラ画・フレスコ画・皮革製品・骨角・象牙・木製品・漆器

(3) 金属・ガラス・陶磁器・宝石・エナメル・ステンドグラス

lx：ルクス、照度　　K：ケルビン、色温度

2-2-4.用途に応じた加工・使用による汚染、変質、疲労破壊

① 書の縦位置保管、取扱による表面の擦れ・ページの破れ

〈対策〉→現状では、収納箱、帙、ラッパーで保管

注意深く丁寧な取扱

② 閲覧による紙の疲労

〈対策〉→調査・研究時だけの保護策

2-3. 収蔵用材

2-3-1. 砕木パルプ紙に含まれるリグニンの変色と変色物質の転移

（本紙だけではなく周囲が茶褐色になる）

〈対策〉→包装用紙製品は中性紙とする（袋、包装紙、箱の紙、板紙）

2-3-2. 新しい木材から放出される樹脂→桧などの箱に保存された金属の表面に樹脂が付着し、錆を進行。紙にも、フォクシング状褐色斑点をつくる。

〈対策〉→内装木材の場合は、ハトロン紙などの被覆でも樹脂吸着に効果

樹脂の少ない材を使用する（桐、杉の白太など）

→中性紙によるガス吸着

＊「挿入法による中性紙の見直し」[第 15 回資料保存協議会セミナー講演記録] 平成 14 年 10 月

2-3-3. アルカリ性が極めて高い紙（残留木灰を多く含む和紙）に包む危険性

〈対策〉→中性の紙に包む

＊株式会社 TT トレーディング http://www.tokushu-papertrade.jp/

2-3-4. 災害　　補足-3 を参照

① 水害（水害を受ける可能性は予想以上に高い）

3. **保存修復処置**　　補足-4 を参照

a. 裏打ちと補修

b. 漉嵌め法

c. ペーパースプリット

d. 微小点接着法(Micro-dot adhering)

4. 劣化予防対策の考え方と実施

「繊維の寿命」「紙の寿命」と「紙を素材とした文化財(書籍など)の寿命」

修復の考え方

損傷を受けた原因は除去できるか。

本来の姿、装丁を尊重しているか。

乱暴な取扱にも耐える強さまで修復する必要はあるか。

＊図書館･文書館における環境管理（シリーズ本を残す８）稲葉政満著　2001.5

＊IFLA 図書館資料の予防的保存対策の原則（シリーズ本を残す 9）エドワード･P・アドコック編､国立国会図書館訳　日本図書館協会資料保存委員会編集企画　2003.7

＊「容器に入れる－紙資料のための保存技術」（シリーズ本を残す 3）相沢元子他、日本図書館協会

西洋古典籍と大学図書館

中井 えり子

（元名古屋大学附属図書館研究開発室研究員）

はじめに

2010 年度から名古屋大学附属図書館では、水田洋教授（名古屋大学名誉教授、日本学士院会員）の旧蔵書である水田文庫を受け入れており、その整理に携わった経験をもとに西洋古典籍と大学図書館のあり方を考えてみる。

日本の大学図書館が所蔵する西洋古典籍の文庫やコレクションは、オンラインでは国立国会図書館の「全国特殊コレクションリスト」、その関連リンク先の「日本国内の大学図書館関係個人文庫」や「日本の大学所蔵特殊文庫データベース」などで検索できるが、網羅的ではなく、また西洋古典籍だけのコレクションに限られていない。

一方、個別の資料の書誌については、英国の ESTC（English Short Title Catalogue）やオランダの STCN（Short-Title Catalogue, Netherlands）のような全国レベルのデータベースも日本にはない。国立国会図書館や公共図書館の OPAC、国立情報学研究所の CiNii、各大学の OPAC などは、多くは一般図書と西洋古典籍の書誌が混在しており、現状では国内の西洋古典籍の書誌・所蔵を一元的に検索できない。

また、一定の方針で継続的に西洋古典籍を収集している機関も少なく、体系的な蔵書構築がなされていないのが現状と言えよう。

上記のことをふまえて、大学や研究機関における調査・研究に耐えられる西洋古典籍の蔵書構築と書誌作成の環境づくりを提案する。

西洋古典籍の収集と蔵書構築

西洋古典籍の受入れは、大型コレクション、個人文庫の購入・寄贈、研究費・図書館予算等による個別購入などが考えられる。受け入れた版本を活用するためには、現代刊本も含め、一定の方針のもとに計画的に補完し、体系的なコレクションとして発展させ、維持・保管をしていく必要があろう。

昨今では、全文データベースの公開が進展しているが、18 世紀以前の刊本は、書誌的に同一の版・刷のように見えても、実際には全く同一ではない場合があり、異刷を比較したり、原本にあた

ったりして新たな事実が判明することもある。書誌調査には原本が必要となり、さらに、異刷の受入を検討すべき場合もある。

また、閲覧や展示に耐えられるよう、適切な保管環境を整えることはもちろんのこと、修復や保存のための手入れも欠かせない。

西洋古典籍の利用

古典籍の利用は、資料保存の観点からは慎重にならざるを得ないが、資料の活用という面では、積極的に提供し、調査・研究に利用されなければ意味がない。研究者個人の閲覧のほか、授業での利用、学会での展示が考えられる。研究のため以外にも、学生や一般市民が西洋古典籍を身近に接することができるよう、新入生歓迎行事、オープンキャンパス、ホームカミングデイ、図書館主催の展示会などでの展示も活用の一つである。

西洋古典籍の目録

資料の利用のためには、目録の公開が必要である。初期刊本の目録作成には以下の標準的な目録規則に準拠することになる。

・『英米目録規則』　第2版日本語版　日本図書館協会1995（2.12-18）

※ *Anglo-American cataloguing rules*. 2nd ed.の翻訳

・『稀覯書の書誌記述』一橋大学社会科学古典資料センター 1986（一橋大学社会科学古典資料センター1986）

※ *Bibliographic description of rare books.* Washington, D.C., Library of Congress, 1981 の日本語訳

・*Descriptive cataloging of rare materials (books)* . Washington, D.C., Library of Congress, 2007 (3rd printing with corrections, 2011).

※ *Bibliographic description of rare books* の3版にあたる。

NACSIS-CAT に目録登録する場合は、『目録情報の基準』第4版、『目録システムコーディングマニュアル』に従うことが前提となる。

これらの規則に準拠する場合、現状では NACSIS-CAT で方針が整備されていないため、その適用については、必要に応じて各館で独自に運用方針を整備することが必要となる。そのためには、実際に多くの西洋古典籍にあたり、規則適用の是非について十分な検討を行うことが望ましい。また、実務に際しては、書誌調査のための参考図書類、各種書誌データベースや全文データベース（EEBO, ECCO, The Goldsmiths'-Kress Library of Economic Literature など）を揃えておくと便利である。

一方、個人文庫などは、一覧性を考慮して、冊子体目録の作成や、ネット上で特定の文庫の全容がわかるような目録の整備も有効となる。

課題と今後の展開

西洋古典籍活用の蔵書構築を行うには、経費と選書が課題となる。著名な著作の初版本や特別な稀覯書を収集対象とするのでなければ、さほど予算をかけなくてもよいことが多い。日頃から、古書店などのカタログをチェックしておき、予算のあるときのために備えておきたい。

選書の方針として、文庫・コレクションに含まれる版本の異版・異刷や各国語訳、個人の旧蔵書の場合は、売却されるなどして流出してしまった書物、また、あるテーマのもとに集められたコレクションでは、同一テーマの未収本などの収集が考えられる。貴重書として受入られる西洋古典籍は、著名な著作の初版本を収集しがちであるが、研究書ならば、関連テーマの無名の著作や反論者の著作を収集することも意味があろう。

西洋初期刊本の目録規則等のマニュアル整備については、任意規定への対応や、規則の改訂事項の扱いなど、その適用方針は悩むことが多い。また、実務上、注記（NOTE）への統一的な記載のために、注記集を作っておくと便利である。しかし、ある程度集中的に多数の版本の書誌作成を経験しないと、自館の目録規則の運用マニュアルを作成して、一貫した目録を作成・維持することは困難である。

NACSIS-CAT への目録登録では、『目録情報の基準』には、書誌レコードの作成単位として、「稀覯本については，記述対象資料毎に別の書誌レコードを作成する。」（4.2.3）とあるが、記述対象資料ごとに書誌レコードを作成するという運用をしていない大学も多く、書誌の同定・識別が難しいことがある。西洋古典籍の目録登録に際して、最低基準を徹底させる必要がある。

さらに、一機関では目録作成のための実務研修の実施や、高価な全文データベースの導入が困難な状況にあるため、機関を超えた指導者の育成、実務研修の実施や全文データベースの全国的導入が期待される。しかし、一方では、人的に余裕がなく、長期間の研修には参加できないという現状もある。

参考文献

小島由香「名古屋大学における「西洋古典籍資料整理研修会」の実施報告」『大学図書館研究』v. 101, 2014, p. 119-124.

高野　彰著　『洋書の話』 第2版 朗文堂 2014. 11

中井えり子編　*The Mizuta library of rare books in the history of European social thought : a catalogue of the collection held at Nagoya University Library* / preface by Tatsuya Sakamoto. Tokyo: Edition Synapse, Abindon: Routledge, 2014.

中井えり子『水田文庫概要』 名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室, 2013. 3.

―「大学図書館と特殊コレクション ― 名古屋大学の西洋古典籍特殊コレクション」 『カレントアウェアネス』No. 323, 2015. 3. 20 (CA1842)

―「『水田文庫貴重書目録』編集後記」『名古屋大学附属図書館研究年報』v. 13, 2016, p. 55-63.

ヨハネス・アルトゥジウスと共生の『政治学』教本

— ギールケ文庫の初版（1603 年）を手に取って —

小倉 欣一

（早稲田大学名誉教授）

近世ヨーロッパ（15・16-17・18 世紀）は、ルネッサンス・宗教改革に始まる激動の時代です。中世の教皇・皇帝を中心とし、教会組織と封建制度にもとづく統一世界が解体し、絶対王政と商業革命をへて近代の国民国家と資本主義、市民社会の形成に向かっていました。Johannes Althusius (1563-1638)は、この時代のドイツの法学者・法実務家で、プロテスタント・カルヴァン派ザイン・ヴィトゲンシュタイン・ベルレブルク伯領のディーデンハウゼン村 Althaus 家に生まれ、マールブルク・ギュムナジウム、ケルン、バーゼル大学で学び、ジュネーヴに滞在、両法博士［市民法・教会法］の学位を取得、1584 年からヘルボルン神学大学の教授・学長その他を勤め、1604 年以後エムデン「都市共和国」の法律顧問として活躍しました。表題の『政治学』、『正義論』などのローマ法の著作があります。

わたくしはこのたび、一橋大学のギールケ文庫所蔵の貴重な『政治学』初版を閲覧、ペンによる献辞、書き込みや傍線もみられ、たいへん感激しました。Otto von Gierke (1841-1921)こそ、100 年以上も前に『ヨハネス・アルトゥジウス：自然法的国家論の展開』（初版 1879 年Ⅰ部のみ、初版 1880 年Ⅰ，Ⅱ部合本）を著し、忘れられたこの人物の意義をルソーにいたる社会契約・人民主権論と代表原理・連邦制・法治国家論の先駆者として再発見し、そのお陰で『政治学』は知られるようになったのです。

わたくしの場合は、中近世都市フランクフルト・アム・マインに関心をもち、「自由」と「平和」を重視して市民自治を研究してきました。早大を定年退職する折の論文集では、ゲーテも自伝で言及した「フェットミルヒ反乱」（1612-1616）論について、アルトゥジウスと『政治学』の影響如何を今後の課題とし、最近、市政の比較の観点から、教本の論述とエムデンでの体験との関連を調べはじめたところです。それには、ラテン語原文の英語抄訳（カーネイ）や独語詳訳（ヤンセン）の刊行、ドイツ、イタリア、米国、カナダ、日本での研究やシンポジウムの開催などがみられ、新たな成果の参照が可能となったからです。その一端をお話ししましょう。

『政治学』の初版は、初心者向け教本としてヘルボルンで発行（1603 年)、第 2 版ではエムデンでの実務体験によって大幅に加筆し（1610 年)、それを補完したのが第 3 版とのこと(1614 年)、本文だけでも初版と第 3 版とを比べると、469 頁から 969 頁へと二倍以上に増えています。

『政治学』の第 3 版は、表題、序文、目次、図表、本文の 39 章、付録の学長講演、索引、訂正からなります。表題には、「政治学—方法によって分類され、聖俗の実例にもとづき解説される、末尾に学校の必要性、有益性、古さについての称賛講演を付す、前の二つの版より、増大した第 3 版、ナッサウ領ヘルボルン、1614 年」と記されています。方法とは、フランスの論理学者ペトルス・ラムス（1515-1572）の二分法に学び、諸概念を演繹的に分類し、政治学の四枚の図表を掲げています。

本文の第 1 章は、政治学の原理を説き、第 1 節で政治学を定義して「政治学は、社会生活を相互に組織し保護し維持するために人々を結合する術（ars）である。それゆえに、共生の学（シュムビオティケー）といわれる」。第 2 節では、「政治学の主題は、結合体（consociatio［生活共同体］）である。そこでは、明示的あるいは黙示的な合意（pactum［契約］）によって共生者（symbiotici）は、互いに社会生活上の使用と共同が有益で必要である事物に関して相互の共有（communicatio mutua）をはかる義務を負っている」。第 6 節では、「共生者は、共働者（シュムポエトイ）である。かれらは結合と合意の契約の絆によって、快適に過ごされるべき魂と肉体の生活に役立つところの固有のものを分かち合う。換言すれば、かれらは、共同生活（コイネトイ）への参加者なのである」（笹川紀勝訳、小倉補筆）と繰り返して述べられ、わたくしが「共生の『政治学』教本」と題した理由です。

続く本文の構成：第 2-3 章 家族、第 4 章　組合、第 5-6 章　都市、第 7-8 章　州、第 9 章　国家の至高権（主権）と教権のコミュニケーション、第 10-17 章　俗権のコミュニケーション、第 18 章　エフォール（監督官）とその任務、第 19-20 章　最高政務官の叙任、第 21-27 章　国政における英知、第 28 章　教会行政、第 29-37 章　世俗行政、第 38 章　暴君と治療法、第 39 章　最高政務官の種類（カーネイの目次による）。

内容の特色：[a]共生者の結合体の自立性と補完性、政治秩序を上からではなく下から段階的に構築（私的結合体：家族・親族、組合、公的結合体：村落・都市-州-国)、人民主権と国家、君主主権（ボダン）の批判、統治者（最高政務官［王・皇帝］、政務官［諸侯］）へ主権を委任（支配契約)、教権・俗権の分離と分類、王国と州のエフォール（監督官）と身分制議会、暴君放伐論・抵抗権、武器と戦争。[b]カルヴァンのキリスト教綱要、聖書（旧・新訳）:モーセの十戒（神と隣人への愛＝敬虔と正義)、パウロ・ローマ人への手紙（13-1)、ペトロ・使徒言行録（5-29)、聖餐論と二重予定説、ローマ法、アリストテレス、キケロ、アクィナス、ボダン、リ

プシウス、グロティウスなど。

市政の実務体験：スペイン領ネーデルラント避難民、オランダ独立戦争と経済的盛衰、エムデン革命からカルヴァン派「都市共和国」(「北のジュネーヴ」）へ：ルター派オストフリースラント伯・官房長フランツィウスとの抗争、エムデン教会公会議、伯女の葬儀・埋葬事件、エムデン守備隊の首都アウリヒ襲撃、皇帝権力・エムデン帝国艦隊基地化と対決、領邦身分制議会（聖職者、騎士、市民、農民)、カルヴァン派（四聖職）の教会訓育・宗派規律化、教権と俗権の掌握（長老と 40 人衆)、オスターフーゼン協定、三十年戦争、フランクフルトとエムデン、フィッヒァルトとアルトゥジウス（当時の格言「善き法律家は悪しきキリスト教徒なり」とは？)。

現代への射程：国民国家の抗争からヨーロッパ統合、アルトゥジウスの連邦制、補完性原理（EU1992 年マーストリヒト条約）に注目、その後の宗教・宗派対立・戦争・核兵器・災害・難民問題をはじめ、世界と日本の政治・経済・社会・軍事の新たな危機に対して新たな思索へ、社会科学の古典の意義は、『政治学』教本に改めて問い、考えてみましょう、人間にとって「共生の社会とは」そして「主権とは何か」と。歴史から学ぶことは、きっとあるはずです。

参照文献

Johannis Althusii U. J. D. Politica, methodice digesta et exemplis sacris et profanis illustrata, Herbornae Nassoviorum Ex officina Christophori Corvinini MDCIII [1603] (ギールケ文庫) ; 2. Neudruck der 3. Auflage Herborn 1614, Scientia Verlag Aalen 1981.

Johannes Althusius, Politica, an abridged translation of the third edition with an introduction by Frederick S. Carney, Boston (Beacon Press) 1964, New edition London 1965, Indianapolis (Liberty Fund) 1995.

Johannes Althusius, Politik, uebersetzt von Heinrich Janssen, in Auswahl herausgegeben, ueberarbeitet und eingeleitet von Dieter Wyduckel, Berlin (Duncker u. Humblot) 2003.

オットー・フォン・ギールケ、笹川紀勝他訳『ヨハネス・アルトジウス』勁草書房 2011 年

勝田有恒・山内進編著『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』ミネルヴァ書房 2008 年（屋敷二郎「オットー・ギールケ」)

ミヒャエル・シュトライス編　佐々木有司・柳原正治訳『十七・十八世紀の国家思想家たち』木鐸社 1995 年（P. J. ヴィンタース「ヨハンネス・アルトゥジウス」)

笹川紀勝「アルトジウス『政治学』第 1 章とその主要点の研究（その 1）（その 2)」(明治大学)『法学論叢』第 86 巻第 6 号 2014 年 3 月, 第 87 巻第 1 号 2014 年 8 月
遠藤乾『統合の終焉　EU の実像と論理』 岩波書店 2013 年
小倉欣一『ドイツ中世都市の自由と平和』 勁草書房 2007 年

西洋古典資料をもっと知るために

岡本幸治

（製本家・書籍修復家）

西洋古典資料は現代の本とは異なる点を多く持っている。印刷に用いられる紙は、麻（主として亜麻）のボロ（古着）を原料にした手漉き紙である。手漉き紙には様々な大きさの紙があり、紙の方向を変えながら折畳むことによって 2 紙葉のフォリオ判、4 紙葉のクォート判、8 紙葉のオクタボ判などの折丁が構成される。印刷は鋳造活字の組版による活版印刷であり、一冊分のテキストが一度に印刷されることは少ない。多くの場合、印刷の終えた組版をばらして残りのテキストを印刷する。印刷が終わるまでに紙が替わってしまう場合もある。校正や検閲などにより印刷が修正されてページが差し替えられる場合もある。よく見ると、一部の折丁が変色している例が見受けられる。印刷・出版と製本は別々に行われることが普通であって、出版時には正式な製本がされずに仮とじの状態で出版され、購入者がそれぞれ製本を依頼する。同じ出版物であっても製本は異なったものになる。そのため西洋古版本には、所蔵の履歴が色濃く形態に反映されることになる。タイトルが同じでも同一の版とは限らず、同一の版であっても製本などの形態が異なる。出版された当時の姿のまま（仮とじ本）で今日まで伝わっている場合がある。安価で簡略な製本を施されて余白を大きく断裁されてしまうこともあれば、豪華で華麗な製本が施されてページの余白がたっぷりと保持されている場合もある。製本が傷んでしまって修復を施されたり、新たに製本し直される場合（再製本）もある。製本時にメモのための白紙が付け加えられたり、蔵書票が貼付されたり、本紙にメモやアンダーラインなどが書き込まれたりすることもある。西洋古典資料には形態の履歴がある。製本の仕様は一様ではなく、製本構造や装飾様式、使用される素材も多種多様である。

西洋古典資料の保存はこのような多様性を持った（製本された）本を対象として取り組むことになる。どのような特徴を持った本がどのくらいあるのか、傷んでいる本がどれだけあってどんな傷み方をしているのかが具体的に分かると保存手段を考えやすくなる。これから傷む可能性を持った本が予測できて、資料価値や稀少性に加えて利用頻度も勘案しながら処置の緊急性についても理解できれば保存手当ての優先

度を決める手がかりとなり心強いものになる。このような情報を効率よく記録して分析するための手段が調査票である。

西洋古典資料の何を調査すればよいのだろうか。資料を保存する、つまりいつでも利用できる状態に管理しておくために必要な情報が得られることが大切である。それはモノとしての本の詳細なデータであり、具体的には、製本の構造、使用されている材料、構造と材料の性状と劣化状況であると思う。それらの項目について以下に考察する。

1. 製本構造

西洋古典資料には歴史的に特有で異なった製本構造があって、それぞれが固有の力学的体系で成り立っている。現代の本とは構造や機能、使用材料が大きく異なっており、取扱いには注意が必要である。製本構造の特徴は、主として表紙と中身の接続に現れており、さらに異なった綴じ方、見返しの構造が複合的に用いられている。

1-1. 綴じの特徴

西洋古典資料の綴じの特徴は「中とじ」で「綴じ支持体（以後「支持体」と略す)」を利用して本文紙葉ブロックをまとめていることである。折丁を中とじするとじ糸は折丁の末端で隣接する折丁に移動するがその時に糸どうしを絡めて結びを作る。しかし末端以外では糸どうしが絡み合うことはなく、多数の折丁を１つのブロックにまとめられるのは支持体に糸を絡めて折丁を固定しているからである。支持体には様々な材料が使用され、とじ糸の絡め方も様々であるが、支持体を利用した綴じを「支持体とじ」と呼ぶ。

ロープ状の麻繊維やテープ状の革や羊皮紙・布などが支持体として用いられる。綴じ糸は亜麻糸であることが多い。綴じ糸が支持体をくるりと一巻きしながら綴じる方法と、支持体の外側を通過して綴じる方法とがある。前者は支持体が背に突起を形成するが折丁への負担が少なく保存性に優れている。後者は支持体が背に埋め込まれるか厚みのない支持体が使われる場合が多く、折丁への負担が大きく本文紙葉のまとまりが緩い。複数折丁を１運針で綴じる「抜きとじ」が併用されると、さらにまとまりが緩くなる。

本の出版時には本格的な製本はされず、流通過程でバラバラにならないように本文紙葉をまとめた「仮とじ」が行われた。支持体を使わずにとじ糸ど

うしを絡めている。本格的な綴じではなく、そのまま利用に供すると短期間で綴じが劣化する可能性が高い。

19 世紀以降の製本では、徐々に機械力で綴じる方法が採用されて、糸または針金で綴じた。針金で綴じた本は、湿度の影響で錆を生じて折丁紙葉が分離する場合がある。綴じはすべて中綴じが基本であるが、平綴じが部分的または全面的に用いられる場合もある。

1-2. 表紙の接続

綴じの終わった本に支持体を使って表紙ボードを接続した。折丁を綴じて支持体で表紙ボードを接続する方法を「とじつけ製本」と呼んでいる。表紙ボードに穴を開け、支持体がボード表面から裏面へと穴に通されて固定される。穴の個数に違いがあり、穴を開けずにボード表面に支持体を固定するだけの方法もある。ボードが接続されてから表装材を貼る。

表紙ボードではなく表装材に穴を開けて支持体で接続する方法を「リンプ製本」と呼んでいる。支持体だけでなく「はなぎれ芯材」も表装材の接続に使われる。2 個の穴が開けられて、支持体は表装材の内側から外に出て、再び内側に入って固定される。表紙ボードが用いられる場合と用いられない場合とがあるが、支持体が接続するのは表装材のみである。使われる表装材のほとんどが羊皮紙である。

支持体の有無にかかわらず綴じた折丁ブロックと、表紙ボードと表装材で別個に作った表紙を背貼布（寒冷紗）を媒介して接着接続する方法を「くるみ製本」と呼んでいる。上記それぞれの製本構造には複数のバリエーションがある。表装材を貼ってから折丁ブロックと接続する。

1-3. 見返し

表紙と本（中身）との接続を内側から支えているのが「見返し」である。見返しは製本時に中身に付け加えられる紙葉である。その付け加え方によって「とじ見返し」「巻き見返し」「貼り見返し」の種類がある。「とじ見返し」は見返し用紙が独立した折丁になっていて製本時に綴じられる。「とじ見返し」にはいくつかのバリエーションがあり、とじ糸が見返しノド部に見える場合と見えない場合とがある。「巻き見返し」は見返し用紙を最初と最後の折丁ノドに巻きつけて綴じている。「貼り見返し」は主として 19 世紀以降の方法で見返し用紙を最初と最後の折丁のノドに貼り付けている。

見返しに使われた紙は、製本年代の特定に役立つことがある。用紙の原料

の違い、簀の目の有無の違いは有用な情報であり、透かし文様があればある程度の時代が特定できる場合がある。マーブル紙やペースト・ペーパーなどの装飾紙が用いられるのは 17 世紀以降である。マーブル紙の場合はある程度の時代を特定できる可能性がある。マーブル紙などの装飾紙を見返しとして用いる場合は、白紙の用紙との複合型の構造になる。

1-4. 背表紙

表紙を開いて本を読むという行為から発生する負荷は、背の柔軟性と大きく関連している。しかし背表紙の構造と柔軟性にはあまり関連性がないように思われる。構造的には背表紙に芯材の有るものと無いものとがある。芯材が無い場合は、背に表装材が直接貼られている。芯材のある背表紙では、本の背と背表紙との間にすき間ができる場合（穴あり）とできない場合（穴なし）とがある。背表紙の構造とは別に柔軟な背と硬い背とが存在している。柔軟な背の本では、本の開閉時に発生する負荷が少ないと考えられる。

2. 材料

製本に使われる材料にも注目すべきである。現在の姿を正しく記録するとともに、材料の特性に注目する必要がある。

2-1. 表紙の材料

表紙の芯材には木の板やボール紙が使われた。初期のボール紙は紙を貼り合わせて作ったペーストボードで 16 世紀～18 世紀まで使われた。その後はロープ繊維を使った硬いミルボードが用いられるようになり、19 世紀以降は現在と同じようなボール紙が使われた。ボード芯材がまったく使われないこともある。

表装に使われる皮革にはタンニン革、羊皮紙、トーイング革がある。革がボロボロになる化学的劣化現象は 19 世紀以降のタンニン革で起きている。その劣化の仕組みは十分に解明されていない。羊皮紙は湿度の変化に敏感で波打ちや縮み現象が起きやすいが、科学的劣化の心配がない。トーイング革は時代とともに柔軟性を失ってくる。トーイング革は穴なしの背がほとんどで、背の柔軟性も失われる。

製本用クロスは 1920 年代に開発された。製本クロスの登場によって、製本工程の機械化が始まった。木版プリントやマーブル紙、ペーストペーパーなどの装飾紙が製本に使われ始めたのは 17 世紀であるが表装材として用い

られたのは 18 世紀末と考えられる。表紙の箔押し装飾の様式やマーブル紙の模様は製本年代特定の役に立つ。

2-2. 綴じの材料

綴じの支持体に使われる材料の種類は、製本が健全な状態のときには確認が難しい。とじ糸の運針や見返し（効き紙）に現れる凹凸などから判断する。とじ糸で留意すべきは「針金とじ」である。折丁奥の錆びの痕跡や磁石の利用などで判別できる。

2-3. 見返しの材料

見返しに使われている紙は製本年代の特定に役立つ。砕木パルプは 1860 年以降、化学パルプは 1880 年以降と考えられている。簀目のない手漉き紙は 18 世紀中ごろ以降に生産された。透かし文様があれば、文献やデータベースから紙の年代を調べられる。マーブル紙は模様や色などから年代を推定できる。マーブル紙以外の装飾紙も見返しに使われた。

3. 劣化

劣化について詳細な記述が望ましいが煩雑でもある。調査の目的や規模、調査員の能力などによって様々なレベルの調査が可能である。劣化は製本構造と材料の両方について記録するのが望ましい。劣化は材料の劣化として顕現化するが、構造の劣化が材料の劣化に大きな影響を与えていることが多い。保存にとって重要な劣化要因を読み取る必要がある。

3-1. 表紙の劣化

表紙ジョイントの傷み（表紙の欠損、表紙の分離、ジョイントの傷みなど）、背表紙の傷み（背表紙の欠損、背表紙の分離、ジョイントの傷みなど）、材料の傷み（表装材の劣化、破損、欠損、損傷などと芯材の変形など）。表紙の劣化は製本構造の特性と関連している。これらの傷みから保存箱や保護ジャケットの必要性が考えられる。

3-2. 綴じの劣化

支持体の切断による表紙の分離・欠損。支持体ととじ糸の切断による綴じの分解（ブロックに分割、折丁単位でバラバラ）。とじ糸の切断によるページの分離。切断していないが綴じが緩んでいる場合もある。針金の錆びによ

るページの分離。綴じの劣化は、そのまま利用を続けるとさらに劣化が進行する場合が多く、専門家による修復を待ちながら保存箱に収容する方法が考えられる。

3-3. 見返しの劣化

ノド破損は大きな構造的劣化であり表紙の分離に発展する可能性がある。材料の劣化とともにノド破損のメカニズムに注目すべきと考えている。表紙及びページの開閉による負荷が製本構造を通してどのように影響を与えているのかを考えたい。19 世紀以降に製本された場合には見返し用紙が酸性化する可能性がある。

4. その他

製本構造や材料とは別に保存情報として有用な項目を調査することが考えられる。現代の酸性紙とは異なるが、紙のにじみ止めに使われたミョウバンによると思われる紙の変色は化学的な劣化と考えられる。水濡れや虫損など本文紙の性状と劣化についての情報は重要なものと考える。製本の過去の修理履歴や再製本に関する情報は資料のオリジナル性について考えさせられる。所蔵の履歴に関する情報（蔵書票、蔵書印、インクなどによる書き込みなど)。インクによる書き込みは酸性劣化の原因となる可能性がある。画像データを調査票に利用すると、調査項目だけでは理解しにくかったデータが視覚化されて理解しやすくなる。間違いにも気づきやすくなる。手間がかかるが利点も多い。

調査票によって製本構造や材料などの形態的データと傷みのデータを数量的に把握することができる。データを分析することによって潜在的な劣化の可能性を読み取ることが可能である。表紙の分離、綴じの傷み、見返しノド破損のような重度の劣化は、経年による現象というよりは利用による負荷を適切に解消出来ない製本構造上の理由があるものと考える。

（資料図版を当日配布します。）

西洋古典資料の目録作成

床井 啓太郎

（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）

1. はじめに

この講義では、主に 19 世紀より以前に西洋で出版された古典資料の目録作成について、特に国立情報学研究所の総合目録データベースへの登録作業の実際に即して、注意点などを考えていきたいと思います。目録作成は、AACR2（英米目録規則第 2 版）における初期刊本に関する規程（2.12-2.18）の拡張規則である Bibliographic description of rare books. Washington, D.C., Library of Congress, 1981（以下 BDRB）と、その邦訳『稀覯書の書誌記述』国立, 一橋大学社会科学古典資料センター, 1986（一橋大学社会科学古典資料センター Study Series, no. 11）に基づいて行います。また、BDRB の最新版である Descriptive cataloging of rare materials (books). Washington, D.C., Library of Congress, 2007（DCRM（B））の変更点についてもできる限り触れることにします。

2. なぜ特別の目録規則を使用するのか

古典資料でも一般書でも、目録作成において注意すべき点に大きな違いはありません。①情報源から必要な情報を正確に読み取り、②読みとった情報をもとに正しく書誌の同定を行い、③適用する目録規則に基づいて正確に書誌の記述を行う、という基本的な作業が常に重要です。ただし、古い本の場合には、現代の本との出版事情の違いを意識して書誌作成にあたる必要があります。

一般書と「古典資料」の区分は明確に定まっているわけではありません。区分の方法あるいは基準とする年代は館ごとに異なると思いますが、年代で区分する場合は概ね 18 世紀後半から 19 世紀に基準点を置いて、その前後で扱いを変えるケースが多いようです。この 18 世紀後半から 19 世紀という時代は、出版に関連する技術が大きく変容した時代でもあります。この時代に組版、印刷、製本、製紙など多くの分野で技術革新および機械化が進み、現在と同様に「同一の出版物を大量に生産する」ことが可能になっ

ていきました。

現在われわれが総合目録データベースにおいて採用している所蔵管理の方法は、多数のコピーの同一性を維持することが可能な、現代の出版物の特性を前提に成り立っています。一定の事項（タイトル、出版年、版次…）が一致する出版物は、一定の同一性を持っているとみなすことができるからこそ、限られた書誌事項のポイントが一致している資料を同一物であるとみなして、一つの書誌の下に管理することが可能なわけです。これに対して、同一物を機械的に大量生産する技術が確立する以前に出版された本の様態は、もっと不安定なものでした。この時代の資料には、タイトル、出版年、版次などの基本的な要素が一致していても、判型や折丁の構成が異なっていたり、差し替え紙葉が含まれていたり、もっと細かい組版上の差異が存在するようなケースが数多く見られます。こうした資料については、極端に言えば同一のものは二つと存在しないという前提に立って、コピー間の差異を明確に認識できる形で緻密に書誌を記述することが必要になります。『稀覯書の書誌記述』はそうした詳細な書誌記述を行うのに適した目録規則と言うことができます。

『稀覯書の書誌記述』では、タイトルや出版者、製作者の記録などについて、古典資料独特の様態に応じて、省略や置き換えをせずにあるがままを記述することが可能です。その他、基本的に AACR2 に準じる内容であることから、目録作成に AACR2 を使用している館であれば、導入が容易な点もメリットのひとつです。ただし、AACR2 と細部で異なる点や、相反する規定もありますので、これに基づいて書誌を作成する場合には注意が必要です。講義では、実際の資料を題材に古典資料の目録作成のポイントを確認していきます。

3. 目録作成

ここでは、『稀覯書の書誌記述』に基づいて目録を作成する際の注意点を、AACR2 の規定と比較しつつ、書誌事項ごとに簡単にまとめておきます。（反転は『稀覯書の書誌記述』の規程）

<TR>

・レイアウトから一見してタイトル、著者名を見て取ることができる場合が多い現代の出版物と異なり、古典資料では、しばしば多くの情報が切れ目なく連続してタイトルページに並べられた。また、「著者～の…」などの形で、タイトルに著者名が組み込まれる形式もしばしば見られた。

“I. A. Comenii～”＝「コメニウスの～」のように、著者名が属格で書名に掛かっている場合、文法的に分離できないので、全体をタイトルとして記録する。

・ロング s と f を間違わないように気を付ける。横棒が右に突き抜けているのが f。
・"I / J"、"U / V / W"の転記に注意する。（0H.）
・本タイトルは一般に短縮しない。例外として、本タイトルが極めて長く、かつ情報の本質を損なうことなく短縮できる場合は、重要でない語または句を省略できる。（1B8.）
（AACR2 1.1B4. 長い本タイトルは、不可欠な情報を損なわない場合に限って、縮約する。）
・責任表示は一般にすべてを記録する。個人または団体の名が非常に多数であるときは、4 人以上は省略し、3 人目までを記録する。（1G5.）
（AACR2 1.1F5. 単一の責任表示中に 4 人以上の個人または団体の名称が含まれ（る場合は）…最初の一人もしくは一つだけを記載し、他はすべて省略する。）
・タイトルページ、その裏面および先行部分（preliminaries）、または奥付にある責任表示を、そこに表示されている形で責任表示として記録する。責任表示をタイトルページ以外からとった場合は、それを角がっこにいれて、その情報源を注記に示す。（1G1.）
（AACR2 1.1F1. 主情報源以外の情報源から得た責任表示は、角がっこに入れる。）
・責任表示がタイトルページ、その裏面および先行部分（preliminaries）、または奥付以外の情報源中にあるとき、または外からの情報源からとった場合は注記エリアにそのことを記録する。（1G2.）→責任表示エリアには記録しない

<ED>

・版表示、またはその一部分をタイトルページ以外からとったときは、その情報源を注記エリアに示す。（2A2.）
・別刷（issues）または刷（impressions）に関連する表示は、その出版物が以前の版と変わっていなくても版表示として記載することができる。（2B2.）
（コーディングマニュアル 4.2.2H1 …版の表示があっても、それが単に「刷」を意味するようなものであるならば、その情報は ED フィールドに記録してはならない。）

<PUB>

・15-16 世紀の刊本では、写本時代の慣習から出版者・印刷者情報が奥付に記載されている場合がある。出版などのエリアのどの部分でもそれをタイトルページ以外からとったならば、その情報源を注記エリアで示す。（4A2.）
・出版者などの名は、完全な正字法形式で、かつ文法的事実（先行する必要な語句とともに）によって転記する。（4C2.）
（AACR2 1.4D2. 出版者名、頒布者名などは…最も簡潔な形で記載する。）
・出版者に関連する表示が二つ以上あるときは、一般に、表示されている順序ですべてを記録する。（4C6.）
（コーディングマニュアル 2.2.3F1 出版地、出版者等が複数表示されている場合は、

顕著なもの、最初のものの順で、記録する。…2 番目以降は「選択」である。）

・出版地の名の前にある前置詞は転記中に含める。（4B2.）

（AACR2 1.4B4. 土地、個人、団体の名称は、付随している前置詞を省略してそのまま記載する。）

・2 つ以上の場所が示されていて、それが同等の重要性をもち、かつその場所がすべて同じ出版者、頒布者または印刷者に関連しているときは、そのすべてを記録する。（4B6.）

（AACR2 1.4C5. 出版者、頒布者などの事務所が 2 箇所以上にあり、それらの地名が記述対象に表示されている場合は、最初に出ている地名を常に記載する。…その他のすべての地名は省略する。）

・出版地が略語で表示されている場合は、その表示のまま記録して、略語でない形を付記。

Lugd. Batav. = Lugdunum Batauorum = Leiden

*PUB: Lvgd. Batav. [Leiden]

・『稀覯書の書誌記述』においては、印刷者の名前や場所は、出版者・頒布者のそれと同等の位置付けが与えられている。印刷社の名がタイトルページに表示されているときは、別に出版者表示があるなしに関わらず、記録する。（4C2.）

（AACR2 1.4G1. 出版者名が不明の場合は…製作地および製作者名を記載する。）

・年を示すローマ数字を、それが誤りであったりミスプリントでないかぎりアラビア数字にかえる。（4D1.）

ローマ数字の表記：M=1000, CIↃ=1000, D=500, IↃ=500, C=100, L=50, X=10, V=5

*CIↃ IↃ C X L=1640

<PHYS>

・1800 年以前の出版物については、版型を決定できるときは必ずそれを付記する。（5D1.）

*(8vo)=8 折版

・印刷のない丁またはページ、広告類も数量の表示に含める。広告類を記録した場合は、必ず注記でそれを示す。（5B1.）

（AACR2 2.5B3. なくてもよいもの（広告、白紙ページなど）で番号づけのない部分は無視する。）

<VT>

・<TR>の記述は、"I / J"、"U / V / W"の転記により資料の表示形と異なるため、VT:TT に転記する前の表示形をそのまま記述し、アクセスポイントを作成する。

<NOTE>

・その著作の書誌的来歴について注記する。（7C7.）

*NOTE : The first of the Elzevir editions of the Janua

・色刷りが重要な特質を備えていれば注記する。インキュナブラの色刷りは必ず注記す

る。（7C10.）

*NOTE: Title in red and black

・挿図のより完全な細目を記載する。（7C10.）

*NOTE: Title vignette (printer's device with motto “Non Solus”)

・ページ付けの誤りを注記。

*NOTE : Errors in paging: 207 numbered 205 (2nd group)

英文学の正典と受容
― 文学観光の事例から ―

吉野 由利
（学習院大学文学部准教授）

本講義は、近年英文学研究で注目されている「文学観光（literary tourism）」のテーマを通して、古典の受容のあり方に理解を深めることを目的とします。

古典への関心を喚起したり、価値を理解してもらうためには、どうすればよいのだろうか。このような問題は、活字離れが進む一方、デジタル複製化の需要が高まる現在、古典資料に関わる図書館員と研究者にとって、ますます切実なものとなっているのではないでしょうか。

たとえば、地域の図書館などが「文学散歩」と称し、土地にゆかりのある作家や文学作品の紹介をする取り組みも、こういった問題意識と関係がありそうです。実のところ、「文学散歩」や「文学観光」と呼ばれる作品受容のあり方は、「アマチュア的」であるとして、英文学研究者の間では軽視されてきました。しかし、作品受容の多様性を重視するようになった批評の潮流で、研究対象として注目されるようになっています。

本講義では、英文学の近代小説の発展に重要な貢献をおさめたジェイン・オースティン（Jane Austen, 1775-1817）とマライア・エッジワース（Maria Edgeworth, 1767-1839）に関する文学観光の事例を比較・紹介します。

1.「古典」と「正典」

日本語の「古典」という概念は、英語の“canon”（正典）と“classics”（古代ギリシャ・ローマの代表的著述）の概念を包有します。たとえば、広辞苑によると「古典」の意味は、次のように定義されています。

① 昔の典型・儀式、また方式。日葡辞書「コデン」
② 昔、書かれた書物。昔、書かれ、今も読み継がれる書物。
③ 転じて、いつの世にも読まれるべき、価値・評価の高い書物。
④ 古代ギリシャ・ローマの代表的著述。

この中で、“canon”（正典（キャノン））の概念に関連があるのが、②と③の意味といえるでしょう。近年の英文学研究は、まさに「正典」の選定基準の見直しを主軸に展開してきました。つまり、イングランド文化を標準とする教養を備えた特権階級の白人男性異性愛者の視点を水準として選定されてきた、従来の「正典」の作品リストの構成を修正する取り組みです。それまで軽視されてきた女性や労働者階級、旧植民地出身の作家、ユダヤ系作家、ゲイ・レズビアン作家などの作品が再評価されるよ

うになり、その作業は続行中です。

ひとたび「正典」の仲間入りをしても、その地位を剥奪される作品もあり、「正典」の構成リストは時代のイデオロギー、学問、審美基準などの動向によって可変性があります。とはいえ、正典性が付与されたテクストは、学校、大学機関の指定図書として読まれ、他の作品を評価する尺度ともなるので、「自己永続的」ともいわれています。また、昨今は、正典的作品の映像化が進み、映画やドラマ版を入り口として一層大衆的な受容が進んでいます。

本講義では、作品の正典化の過程で立場が逆転したエッジワースとオースティンにまつわる文学観光の変化を概観します。エッジワースは、アングロ・アイリッシュ系の地主の家庭に生まれました。父親リチャード・ラヴェル・エッジワース（Richard Lovell Edgeworth, 1744-1817）は、啓蒙思想の影響を受け、アイルランドの地所の改良に努めた人物です。自らの家庭での育児の観察や実験をもとに、『実践的教育論』（*Practical Education*, 1788）を始めとする各種教育論を長女マライアと編み出しました。なかでも『専門教育論』（*Essays on Professional Education*, 1809）の初版本は一橋大学社会科学古典資料センターに所蔵されています。

エッジワースの最大の功績は、グレイト・ブリテンとアイルランドが合同して連合王国が成立した時期に、「地域小説」や「国民小説（national tale）」といったサブジャンルを通して、連合王国体制のあり方を巡る論争に文学的な応答を発し、オースティンやウォルター・スコットの作品にインスピレーションを与えるまでに小説の可能性を広げてみせたことといえるでしょう。

エッジワースの小説の代表作である『ラックレント城』（*Castle Rackrent*, 1800）や『不在地主』（*The Absentee*, 1812）は、アイルランドの言語や文化、風習を連合王国の読者に紹介する目的で書かれましたが、広く欧米受容され、当時の女性作家としては珍しく国内外の文壇で一目おかれる存在となりました。つまり、オースティンが作品を発表し始めた 19 世紀初頭は、エッジワースの作品の方が正典性を認められていたといえます。その後、オースティンの作品が圧倒的な人気を誇るようになり、作品の正典性も逆転しました。

２.「文学観光」研究

近年、「文学観光」と呼ばれる現象が、正典の受容のあり方を示す重要な手がかりとして、特にロマン派研究で注目を集めています。これは現在でも英国の観光地として筆頭にあがる湖水地方の自然美がウィリアム・ワーズワース（1770-1850）やサミュエル・テイラー・コウルリッジ（1772-1834）らロマン派の詩人たちの作品にインスピレーションを与えたことや、ロマン派期（1789 年～1836 年）に道路や交通手段の整備が進み、特権階級以外の人々も観光に出かけやすくなったことと関連があります。

文学観光の形態は様々ですが、作家の家やお墓、ゆかりの地、作品舞台の土地への巡礼があげられます。本講義では、オースティンやエッジワースゆかりの地への文学観光の事例を通して、読者たちがどのように作品を受容していたか、作者とどのような絆を築いたのか、また、作家ゆかりの

地を観光地化することで生じた問題点を概観します。

前節で述べましたように、オースティンとエッジワースの作品の正典性は逆転しましたが、それは文学観光の巡礼地の整備にも大きな差となってあらわれています。なかでも、オースティンと縁故のあるチョートン・ハウスは、老朽化が進んでいたところ、北米の篤志家の援助を受け、近代英国女性文学の研究図書館として再生しました。その一部は、一般にも開放され、「ジェイン・オースティンの家博物館」となったチョートン・コテージと共に、オースティン愛好家の主要巡礼先となっています。「チョートン・ハウス図書館」の設立には、オースティンの小説の BBC ドラマ化、シリコン・バレーの IT 産業の利益、フェミニズム批評の相乗効果が背景にあり、正典の大衆的な受容が学術奨励に還元されるという非常に興味深い事例といえるでしょう。対して、エッジワースの生活と執筆の拠点であったエッジワース・タウンは、19 世紀にはアイルランド有数の図書コレクションを誇る知のパワーハウスとみなされていたのですが、現在は私設看護施設として機能し、敷地の一部のみ公開されています。地域文化振興の一環として毎年開催されるマライア・エッジワース文学祭と緩やかに提携する現在です。

講義の終わりには、大英図書館やチョートン・ハウス図書館の公式サイト上のオンライン資料の授業や研究への活用例もご紹介したいと思います。

参考文献リスト

ロバート・イーグルストン『〈英文学〉とは何か』研究社、2003 年

石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社、2014 年

大橋洋一編『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年

ピーター・バリー『文学理論講義』ミネルヴァ書房、2014 年

山内久明・高田康成・高橋和久『イギリス文学』放送大学教育振興会、2003 年

吉川朗子「文学観光と環境感受性の教育 —— ウィリアム・ハウイットをめぐって」、小口一郎編『ロマン主義エコロジーの詩学 —— 環境感受性の芽生えと展開』、音羽書房鶴見書店、2015 年、243-64 頁

吉野由利「マライア・エッジワースと帝国、ファッション、オリエンタリズム」、海老根宏・高橋和久編著『十九世紀「英国」小説の展開』松柏社、2014 年、24-44 頁

Dow, Gillian and Clare Hanson, eds, *Uses of Austen: Jane's Afterlives* (Basingstoke: Palgrave, 2012)

Watson, Nichola J., *The Literary Tourist* (Basingstoke: Palgrave, 2006)

——, ed., *Literary Tourism and Nineteenth-Century Culture* (Basingstoke: Palgrave, 2009)

Yoshikawa, Saeko, *Wordsworth and the Invention of Tourism, 1820-1900* (Burlington: Ashgate, 2014)

オンライン上のリソース

エッジワース協会公式サイト　http://www.mostrim.org

Web ロマン主義入門講座（放送大学）　http://www.campus.ouj.ac.jp/~gaikokugo/romanticism/index.html

ジェイン・オースティンの家博物館公式サイト　http://www.jane-austens-house-museum.org.uk

大英図書館公式サイト　www.bl.uk

チョートン・ハウス図書館公式サイト　http://www.chawtonhouse.org